

Computer Report

Vol. 51 No. 4 4月号 (通巻 679号)

はじめの言葉

■未曾有の大地震、巨大津波によって犠牲になった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災した多くに皆様に、心よりお見舞い申し上げる次第である。歴史に残る関東大震災も、そして 16 年前の阪神淡路大震災も、地震そのものよりも、その後に発生した火災によって多くに人々が犠牲になった。今回の東北関東大震災も、地震によって発生した巨大津波によって多くの人々が犠牲になってしまった。

■このことは、今現在の科学力をもってしても地震そのものは防ぐことができないかもしれないが、地震後に予想される二次災害については、何とかならなかったかと口惜しい限りである。自然災害の規模を完全に推し量ることは易しいことではない。しかし、火災、津波への対策は、我々の叡智をもってすれば、今少しできることがあったのではないかと、やることがあったのではないかと思えてならない。

■そして、世界中から注目を集めているのが、福島第一原発の事故である。これも、敢えて言えば、想定外だった巨大津波による被害である。放射性物質の飛散拡散が原因で住民が大規模な避難行動を強いられていることを考えると、今少し何か配慮しておけることがあったのではないだろうか。原子力発電所が設置されている周辺の市町村には、誘致協力金が配慮されている例は少なくない。その使途も含めて再検討される必要があるだろう。

■福島第一原発が設計されたのは 1966 年頃だと言われる。今回の事故で高濃度の放射性物質の漏洩が報告された 3 月 25 日が操業 40 周年だったという。当然ながら 40 年前に、誘致協力金（実際どういう名目かは知らない）を受け取った地元代表者が存在していただろう。そのカネが何に使われたかから検証してみるべきだろう。地元民の安全のために使われるのではなく、見てくれの良い市町村庁舎に化けているようだったら問題だ。

■いまだに、救援物資が滞っている被災地がある。しかも、現地で何が必要とされているのかの情報把握すらできていないという。現地からの情報発信機能がいまだに回復できていないからである。爆発的な普及をみせている携帯電話だが、写メだ着メロだというアクセサリ機能ばかりに精を出し過ぎ、基本の通信機能の充実を忘れてきたため、非常時の通信手段としては、全く機能しなかった。総務省、携帯電話各社の猛省を促したい。

■読者諸賢からもいろいろと復旧に向けてのアイデアが寄せられている。その中に、無線通信機をヘリで被災地の人々に投下するべきだというものがあった。政府の動きはなくともアマチュア無線連盟ではいち早く動いている。全国に先駆けてアマチュア無線の免許を持つ職員を現地に派遣したのは相模原市役所だった。被災の次の日から 23 日まで現地に滞在して情報発信を支援してきたという。賞賛に値する行動だ。感動である。

■大災害の陰に隠れた格好のみずほ銀行の基幹業務システムのダウントラブルである。義捐金受付口座への振込集中が原因だとされているようだが、俄に信じ難い。他行では同様のシステムダウンは発生していないからだ。百歩譲って、直接的なトリガーはそうだったかもしれないが、根本原因は他にあるはずである。それを明らかにしない限り同行の社会的信用は回復しない。現に大挙して給与振込を撤収する企業が相次いでいる。（藤見）